

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

第六回定時評議員会開催

二〇二二年度事業報告・計算書類承認

役員及び評議員選任

友愛ユニオンから理事・評議員誕生

六月二十五日（日）午前十時より、友愛サロンにおいて第六回定時評議員会が開催され、二〇二二年度事業報告・二〇二二年度計算書類が協議の上承認された。また、任期満了に伴う、理事・監事・評議員の選任も行われ、理事会が推薦する十四名の理事、二名の監事、十二名の評議員が選任された。今回の理事、評議員には、若者で構成される友愛ユニオンのメンバーも選任されている。

評議員会は定刻に始まり、互選によって谷藤悦史評議員が議長に就任し、議題を潤滑に協議出来るようご協力をお願いしますと就任挨拶を述べた。

議長の名で、鳩山由紀夫理事長が挨拶を行った。

お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。昨日沖繩へ参りまして、慰霊の日としての活動をして参りました。中でも痛まし

い思いを強くしたのは、集団疎開船「対馬丸」の撃沈です。情報としてつかんていにも関わらず、中止しないで対馬丸を運行した、その責任は大きいと思います。皆さんも是非、沖繩の戦争実態に目を向けて、平和につながる活動をしていただきたいと思います。友愛も平和を目指して、更に努力を続けて参りましょう。

協議事項

はじめに、事前に事務局

谷藤悦史評議員会議長



評議員会開催の様子

から送付した第一号議案・第二号議案・第三号議案に関する資料及び監査報告書の写しを、全評議員が受領していることが確認された。

第一号議案 二〇二二年度事業報告について

議長が第一号議案二〇二二年度事業報告について、理事長はこれに答え、二〇二二年度の事業が、報告書の通り順調に進められたこと、コロナの影響あるいは相手国の状況によって思い通りに進展できなかった事業のあったことなどを報告した。

議長は理事長の報告を受け、第一号議案二〇二二年度事業報告について諮ったところ、全会一致でこれを承認した。

第二号議案 二〇二二年度計算書類について

続いて議長が第二号議案二〇二二年度計算書類について審議を進めることを宣

し、監事に監査報告等についての報告を求めた。

これに答え、海方亨監事が監査報告書に基づき、監査した結果、帳票など問題が無く処理されている旨を報告した。

併せて事務局より、羽中

第二十九回臨時理事会

鳩山由紀夫理事長再任

全会一致で選任



鳩山由紀夫理事長

第六回定時評議員会で、新たに理事が選任された事を受け、代表理事を選任するため第二十九回臨時理事会が六月二十五日（日）午後十二時から開催された。

臨時理事会は、定数確認が行われた後、直ちに新代表理事の選任に入った。

代表理事の選任にあたり、定款により議長を務めていた鳩山由紀夫理事長から、立候補、推薦などを受

田元美事務局長が、計算書類に示されている事業費について、当法人の採択している按分率、按分した結果の数値などについて、資料を基に説明を行った。

議長が全員に第二号議案二〇二二年度計算書類について諮ったところ、全会一致でこれを承認した。

第三号議案 任期満了に伴う役員（理事・監事）及び評議員の選任に関して

最後の議題に移ることを議長が宣し、第三号議案任期満了に伴う役員（理事・監事）及び評議員の選任を行うこととなった。

議長は、理事長に理事会が推薦する候補者についての説明を求め、理事長が事前に配布してある推薦者一覧に基づき、一人一人の経歴、推薦理由などについて詳細な説明を行った。

1、理事の選任

議長は、始めに理事について審議を行うことを告げ、質問を受け付けた。

質問を締め切り、理事会の推薦する候補者十四名一人一人について、挙手を以て選任の可否を諮ったところ、理事会の推薦する候補者十四名全員が全会一致で選任された。

2、監事の選任

続いて、監事二名について一人づつ挙手を以て選任の可否を諮ったところ、理事会の推薦する候補者二名が全会一致で選任された。

3、評議員の選任

最後に、評議員について理事会の推薦する候補者全員について、一人一人選任の可否を挙手を以て諮ったところ、全会一致で理事会の推薦する候補者全員が選任された。

新役員及び評議員（敬称略）

鳩山由紀夫 井上和子
茂木健一郎 谷藤悦史（新任）
中島政希 芳賀大輔
井田安信 西川伸起 攬上哲夫 山崎偉広 南塾幸信
鳩山太郎 山口千恵子 後

け付ける旨が伝えられた。

理事の中から、鳩山由紀夫理事に引き続き代表理事を務めて欲しいとの声があり、全員に諮ったところ出席者全員の賛意を得たため、鳩山由紀夫理事長が再び代表理事に選任された。

理事長就任挨拶

七〇周年を迎える本財団の、これからこそ大切な時です。皆様方のご協力を得て、有意義な事業展開など、ますますの活動を行って行きたいと考えております。

また、今回大ベテランの谷藤先生、友愛ユニオンか

藤大智（新任）
監事 金沢俊弘 海方 亨
評議員 戸澤英典 萩原直三 田中正基 川手祥右 高橋佳大 肥沼章彦（新任） 松下昌代（新任） 小西健斗（新任） 猪飼浩樹（新任） 青山高恵（新任） 森崎桃子（新任） 龍 舞香（新任）

予定していた協議を終え、第六回定時評議員会は定刻通り終了した。



永年評議員を努めた小峰秀子さんは、鳩山安子元理事長との思い出を述べ、退任の挨拶を



臨時理事会／代表理事を選任

友愛時評

▼四年ぶりに福島第一原発を訪れた。折しも「処理水」の海洋放出の政府方針により、周辺国は「汚染水」放出に強く反発し、国内でも漁業関係者を中心に「風評被害」への懸念が示されている。▼原発事故後に建屋内で発生する汚染水は、ALPSという略称で知られる浄化設備によって処理される。セシウムやストロンチウムなど六二種類の放射性物質は吸着剤とフィルターを通すことで除去できるが、水に非常に近い性質を持つトリチウム（三重水素）だけは現在の技術では除去できない。そのため、トリチウム水（処理水）の保管量は増え続け、周辺緑地を転用した巨大なタンク群の増設も限界に近付いている。▼今回の視察コースは、構内出入口すぐ近くの海洋生物飼育施設から始まった。処理水によりヒラメやアワビを飼育し、普通の海水による飼育と差がないことを示すため昨秋に設置されたものである。トリチウム水で飼育されたヒラメを通常の海水に戻すと、二四時間で検出できない値に下がるというデータが示され「見た目も変わらないでしょう？」と説明を受けた。しかし、同行した米国人教授は、長期的な影響はまだ検証されていないはず、と納得していないはずと述べた。▼自国の原発から高濃度のトリチウム水を排出しているながら、ALPS処理水放出計画を声高に批判している周辺諸国が、この問題を「政治利用」している側面も否めない。だが、未曾有の原発事故を起こした「原子力ムラ」に対する不信感は、国内でも簡単に払拭できるものではない。廃炉作業と同様、長い時間がかかる地道な取り組みとなる。

（ヒゲ）



世界平和に資することを誓って ―国連機関施設前で―

ウィーンにある国連機関施設の建物が並ぶ場所で記念撮影。全員世界を舞台に国際平和に働く事を意識して、キメポーズで収まっています。若さと可能性、希望と夢が溢れています。
写真前列左から佐野祥子さん・龍舞香さん・奥山千波さん・堆美優さん・田島桃子さん・女鹿笑奈さん 後列左から弟子丸香歩さん・藤田脩椰さん・小倉佑太さん、田内和久ラザルスさん、北島貴央さん・ニケライベッヘナーゼさん

二〇二二年度O.E.J.A.B.派遣第二陣 ・帰国報告その2
ウィーンで育まれた強い絆
個性豊かな十二人が友愛を旗印に団結

新型コロナウイルスの影響で、実施が延期になっていたO.E.J.A.B.派遣が、やっと実現した。前回の第一陣に続き、三月十七日から二十六日の日程でO.E.J.A.B.を訪問した、第二陣の帰国報告をお届けします。今月号は、その2として、二〇二二年度派遣員の報告を掲載します。（二〇二〇年度・二〇二一年度派遣員の報告は五月号に掲載）写真は、一部割愛しております。「友愛」のホームページには、既に第二陣全員分の報告と、写真も全てカラーで掲載しておりますので、是非ホームページにもアクセスしてください。
*HPは、スマートフォンで表題下のQRコードからもご覧いただけます。

全員分一挙掲載
写真も全て掲載
友愛HPを是非！



yuai-love.com

ウィーンで学んだ

「共生」の道

堆 美優

長かったようで短かった十日間を経て、私はかけがえない出会いと、生涯記憶に残るような学びの機会に恵まれました。

書きたいことは山ほどあるのですが、いくら原稿があっても足りないためここでは一つに絞ってお伝えすることにします。

私は難民問題にかねてより関心を持っており、今回の派遣でも現地での難民支援の実態について学ぶことを目標の一つとして掲げていました。

しかし、現地で実際に見聞し、得られた情報は私の想定をはるかに越えたものでした。

O.E.J.A.B.が管轄する数々の社会福祉事業のうち、私が最も感銘を受けたのが「自国の青年支援」の取り組み

O.E.J.A.B.が管轄する数々の社会福祉事業のうち、私が最も感銘を受けたのが「自国の青年支援」の取り組み



四月からキャンパスが一緒になるベナ（写真右）と二〇二二年度派遣員 堆 美優

です。国内で学校教育などからこぼれ落ちてしまった若者に対し、政府の資金援助のもとで、社会へ、学校への復帰支援を行うというものです。

私はこの活動から、難民支援に通底するオーストリアの信念を学びました。

それは「共生」への飽くなき挑戦です。

背景にあるのは経済的理由など様々ですが、最終的なゴールとして「共生」のビジョンがあり、そこに信念があるから、あらゆる支援活動が可能になっているのだと学びました。

一方で、政府の方とのお話からオーストリアが国として難民の言語支援に力を入れているのが、単なる人道支援ではなく

社会経済的合理性の元に成り立っていることも知りました。

日本で「難民支援がなかなか進まないのはなぜか」を考える時思い出すのが「日本は元来複数の民族が共生することによって発展してきた国である」という在オーストリアの水内大使の言葉です。多くの方との出会いと、いただいた言葉から、私は「共生」について

素敵なワイナリーで最後の晩餐 美味しい料理と素晴らしい仲間 二〇二二年度派遣員 堆 美優



初めてのウィナーコーヒーに感動 同期派遣員女鹿さん（写真右）と二〇二二年度派遣員 堆 美優



て新たな学びを得て、多くを吸収して帰ってきました。

そしてもう一つ、私にとって大きな出来事は、今回の派遣で自分が大学入学当初から力を入れて学んできたドイツ語の成果を肌で感ずることができたことです。現地で様々な方からお話を聞きますが、その人自身の言葉を理解することができたことに、感動し喜びを感じていました。今回の経験から、大学での勉学の指針も大きく定まり、現在は日本の歴史と人道支援について学び、留学ではヨーロッパにおける共生の歴史と今について学ぼうと考えています。

最後になりますが、今回の派遣を直接・間接的に支えてくださった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。本場にありがとうございます。この御恩を忘れずに、より良い社会・未来を担う若者の一人として一層励みたいと思います。

オーストリア派遣を

終えて
弟子丸 香歩

最初に、COVID-19の流行や世界情勢が不安定な中、オーストリア派遣という貴重な機会をいただきましたことに感謝申し上げます。私にとって初め

てのヨーロッパ生活は慣れないこともありましたが、十一名の仲間と協力し合いながら多くのことを学びとても充実した八日間を過ごすことができました。

オーストリア研修の目的の一つはO.E.J.A.B.が運営する高齢者施設の見学でした。高齢者の方々は、建設されたばかりの明るく開放的な建物の中でそれぞれの介護レベルに合わせて手厚いケアを受けながら生活されていました。見学中、このような非常に設備が整っている施設に入所するにはどの程度の資産が必要なのだろうと疑問に思い質問したところ、介護費は国で賄われているため希望すれば誰でもこの施設に入居できると説明いただきました。私はオーストリアの福祉の手厚さに驚くとともに、この見学を通して日本の高齢者の方々が穏やかに過ごせるように医療福祉制度についてさらに理解を深めたいと思いました。

次に難民支援施設の訪問です。オーストリアは国民の二五%が難民で、難民の方を積極的に受け入れているため、難民の方々が就職・就学をシームレスに受けられるような体制が整えられています。

高校生の難民の方にお話を伺ったところ、オーストリアの生活は慣れないこともありましたが、十一名の仲間と協力し合いながら多くのことを学びとても充実した八日間を過ごすことができました。



OEJABが運営する老人ホーム
どこも光が沢山入る設計でした
日本のそれとイメージ格差があります
2022年度派遣員 弟子丸香歩



難民の方々がドイツ語の授業を受けている様子。皆さん熱心に講義を受けていらっしゃいました
2022年度派遣員 弟子丸香歩



ウィーン滞在中お世話になったOEJABが運営するホテル
食事も美味しかったし、量も充分でした
2022年度派遣員 弟子丸香歩

ストリアは難民に対してドイツ語教育を細やかにやっていること、就職において難民であるから不利になるということがないことが素晴らしいとおっしゃっていました。日本では、難民の方への日本語教育が十分でなかったり、就職先が見つけないといった話も聞きます。それ以前に、難民認定が極端に少ない日本の状況を考えると、

最後、出発前から帰国後に至るまで日本からサポートしていただいた友愛の方々、十二人とい

う大人数を引率し私たちが困っているといつも笑顔で快く助けてくださったニック、互いに刺激を受けそして励まし合い生涯の友人となった十一人の仲間により感謝申し上げます。

―多様性と個人―

田内和久ラザルス

オーストリア派遣では、OEJABの職業訓練校、国連CTBTO、連邦首相府、日本大使館を訪問するなど、貴重な経験をさせていただきました。これらの経験を通じて、多くのことを学び、新たな見識を得ることができました。また、ウィーン市内やザルツブルクでの観光も印象に残るものが多かったです。本レポートでは、その中から最も強く印象に残ったものを紹介したいと思います。

それは、OEJABの職業訓練校への訪問です。ここでは、難民として認定された若者たちが支援されています。派遣前には、このような施設が存在していることは知っていましたが、実際に訪れてみると、彼らがただ「難民」として過ごしているだけではなく、新たにオーストリア社会に一人の人間として組み込まれ、自立することができ

るようなカリキュラムがあることに驚かされました。職業訓練校では、エンジニアリングやプログラミングなど、幅広い授業を受けることができ、個人に合った専攻を選択することができます。個人を尊重し、個人に合った生き方や職業を身につけられるようにするこの取り組みに、私は感銘を受けました。難民として認定されていても、彼らは一人の人間としての人生を送っているのだということを、再認識しました。この施設で、異なる文化を持った人々との交流を通じて、個々人の多様性を受け入



OEJABの学校でドイツ語クラスの先生方と。中級レベルのクラスでも全てドイツ語を使用していた
二〇二二年度派遣員 田内和久ラザルス



美術史美術館をバックに全員と自撮り。十二人は迫力だ。夕暮れ時でもあり美術館の建物が美しく夕日に映えていました
二〇二二年度派遣員 田内和久ラザルス

れ、尊重する姿勢を育むことが重要だと思いました。私たちは難民の方々に「難民」という集団で捉えがちですが、個人々々を尊重して理解することが、難民問題を考えるうえで重要になってくるのではないのでしょうか。

また、ウィーンの美しい街並みやシェーンブルン宮殿などの歴史的建造物を訪れ、名物料理を堪能



シュテファン大聖堂の近くで藤田君(写真左)と乾杯。夜の美しい大聖堂を見ながら、美味しくビールを頂きました
二〇二二年度派遣員 田内和久ラザルス

能するなど、非常に充実した一週間を過ごすことができました。本派遣においては、多くの気づきがあり、多彩な経験をすることができました。この場を借りて、本派遣の実施に尽力していただいた友愛事務局、OEJAB、そして私たち十二人を一週間アテンドしてくださったニックに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

OEJABのようなNPO法人や一般企業の参画は必要不可欠であると思います。日本でも友愛の精神を広め、OEJABのような組織がたくさん出来るように私も尽力していきたいと思っています。この度はこのような機会をいただき誠にありがとうございました。

世界平和への一助
となる活動を
ニケライ・ベツヘナーゼ

振り返ってみれば、もともとは大学の講義で受けた「平和紛争論」、そして自身のルーツであるイラン国内の状況がきっかけとなって難民問題に興味を持ち、今回の派遣に参加させていただくことになりましたが、派遣後には自身の関心分野以上の学びがあったと考えています。

OEJABの職業訓練

所に行った際に、ドイツ語の授業が行われていて、拝見することができました。教室内ではさまざまな国出身の難民の生徒が出席しており、明るく、楽しい雰囲気魅了されながら、日本で在住外国人向けの「日本語教室」や「夜間中学」といった日本語の教育機関との比較を頭の中で行っていました。先生も生徒も授業に対して熱心で、積極的に参加しようとする姿勢がとても眩しかったです。日本ではなかなかこうした公費による専任の講師のもと日本語を教えるという機会がまだ普及しているとは言い難い状況にありますが、その点これらの職業訓練所でのドイツ語の授業は高い質と共に生徒一人一人に寄り添った教育が行われているのを見て、刺激を受けたと共に、強く印象に残りました。

私はペルシア語を話すことができますが、難民出身者



初日に訪れたカールス教会での集合写真。ついで早々に市内を回りましたが、みんな元気でした。教会の外観は白く品があり、とても綺麗でした
二〇二二年度派遣員 ニケライ・ベツヘナーゼ



OEJABの難民施設に掲示されていた張り紙。一年間宿泊場所を無償で提供するという内容が書かれている
二〇二二年度派遣員 ニケライ・ベツヘナーゼ



オペラ座での写真。ずっと行ってみたかった場所だったので、想いが叶って幸せでした。派遣員の女子組で記念に一枚撮りました
二〇二二年度派遣員 ニケライ・ベツヘナーゼ

の方の中には私と同じイラン人、もしくはイラン出身者も少なくありません。

んでした。私がイラン人でペルシア語が話せることが分かれると、親近感を持つてくれる方も多くいました。オーストリアへの渡航経緯や、イランでは何をしていたかなどを詳しく話してください、話を聞きながら私も日本ではなくもしイランで生まれていたら、今ここにいたかもしれないと思うと全く他人ごとには思えませんでした。今回の派遣での経験を踏まえ、何らかの形で社会貢献活動の場で還元し、イランを含め、世界平和への一助となる活動を今後行うことができればと考えています。

最後に、この派遣を主催し、ご尽力いただいた友愛財団、受け入れ先のOEJABの皆様には深く感謝申し上げますと共に、派遣を楽しく、有意義なものにしてくれたニックと派遣員のメンバーに改めて感謝の意をお伝えします。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

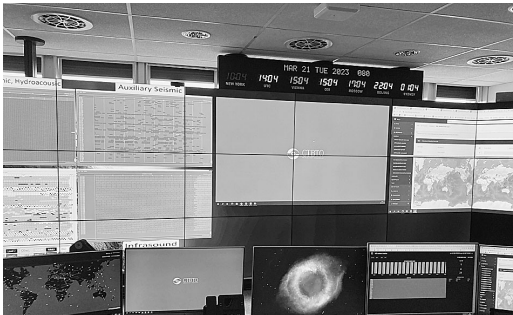
車の両輪

藤田 脩椰

友愛のOEJAB派遣事業が実施され、OEJABや難民受け入れ施設、国連、連邦首相府や大使館等諸機関への訪問の機会をいただきました。友愛やOEJABを始めとする、この派遣事

業の実現にあたり尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

今回の派遣事業を通じて、日本における外国の方の受け入れ姿勢についてより深く考えることができました。訪問させていただいた機関は、独語や職能の習得機会の提供、受け入れ政策の立案・施行等それぞれ相異なる領域において活動されていきました。しかしながら、移民・難民の受け入れにおける態度については軌を一にするものを感じ



二〇二二年度派遣員 藤田脩椰



二〇二二年度派遣員 藤田脩椰



書店の一角にて。ドイツ語に翻訳された日本の「マンガ」がかなりのスペースを占めて置かれていました
2022年度派遣員 藤田脩椰

じました。特に独語や職能訓練の場においては、単に両技能の訓練機会を提供するにとどまらず、これによってオーストリア社会に根を下ろし生活していくための基盤を作っているのだという大きな熱意を感じました。

翻ってわが国の現状を見るに、移民・難民の受け入れに関する議論は未だ成熟を見ず、国としてもどっちつかずの及び腰の側面が強く見られます。もちろん、公共機関における多言語併記の案

OEJABの職業訓練校での3Dプリンタ講座の様子。使用していたソフトが私のと同じで、親近感が湧きました
二〇二二年度派遣員 藤田脩椰

内の増加等、日本で暮らす際の障害を小さくする取り組みは進みつつあるものの、これを乗り越えるための能力獲得の機会提供についてはまだまだ拡大の余地があると痛感しました。

これを実現するにあたっては、草の根レベルからの議論が重要と考えます。そして今回実際に現場に触れてきた私たちがその議論の口火を切る役割を担い、社会全体における議論のきっかけになればと思います。

今回の渡航は、私にとって初めての連続でした。初めて訪れる土地でたくさんの人、場所を訪れ様々な生活、ひいては人生の一端に触れることができました。こうした状況に対して素直さと誠実さを持ち、世界を結び付ける人材を目指したいと思っています。

重ねてではありますすが、今回の派遣の実現にあたり尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

憧れの国への旅を

終えて

女鹿 笑奈

日本には、オーストリアと言われてもピンとこない人が多いらしい。西洋芸術が大好きな私にとっては憧れの国だが、帰国後は「コアラ触れた？」

「ドイツ寒かった？」など聞かれることが多かったので、より多くの人に空気が伝わるような報告書にしたい。

まず首都ウィーンは流石の世界遺産、どこを見ても美しく、壮麗さを保ったまま時が止まったかのような景色だった。また私は街の至る所にある双頭の鷲を見るだけで胸が高鳴るほどにハプスブルク家の歴史が好きだ。



私が一番楽しみにしていたシェーンブルーン宮殿。近くで見ると繊細な装飾が素敵で、惚れ惚れしてしまいます
2022年度派遣員 女鹿笑奈



オーストリアには美味しいビールがいっぱい！ みんなで色々注文して、飲み比べました（HPで是非色のご確認を！）
2022年度派遣員 女鹿笑奈



憧れのオペラハウスと共に写真に収まる。夜のウィーンもまた、とりわけ美しいです。北島くん、素敵な写真を沢山ありがとう
2022年度派遣員 女鹿笑奈

壮大な宮殿の内部には舞台「エリザベート」の小道具そっくりの華やかな展示物が並び、手入れが行き届いた広い庭園に今なお彼らの圧倒的権力を感じ心が躍った。

とはいえ、この友愛でのオーストリア派遣の目玉は、観光では入ることのできない、OEJAB関連の様々な場所を見学できる点である。印象的だったのは老人ホームと

難民支援施設だ。老人ホームは日本でも何度か訪れたことがあるが、それとは比べ物にならないほど明るく開放的な施設だった。しかも登録して順番さえ待てば、かなりの低額で誰でも入居可能だという。日本と同じ少子高齢化状態においても一人ひとりへの細やかな支援に驚いた。また難民支援施設の想像と現実はいぶ違っていた。日本に比べると難民支援といえれば短期的なものを想像しがちであるように思う。しかし実際は長期的にこの地で生活することを視野に、言語・文化の教育や資格取得支援がなされていた。労働世代の減少が目立つ今、移民・難民の増加は危機ではなく好機だ、と捉える政府の考え方が色濃く反映されていた。

今回の派遣団は全国から大学も専門も異なる十二人が集まった。

旅の終盤に訪れた日本大使館ではオーストリアと日本を比較し、日本は今何を目指すべきかについて議論したが、同じものを見ても感じとるものは人それぞれで刺激的だった。

大学四年の春休みという人生の分岐点とも言えるこの時期に、皆に出会えたことに感謝したい。※紙面の都合で前号・今号の二回に分けて掲載しました

公益財団法人 友愛

会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆様のご支援・ご理解のもとで活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。

*申込みはHPからも *お問合せは事務局まで 電話03-5684-3188

友愛の年会費は、確定申告の折り税額控除の対象となります。友愛の活動はHPをご覧ください！ URL:yuai-love.com



◆七月といえば七夕。私の故郷大月市でも、私が子供の頃七夕祭りを実施していました。仙台のそれにはかないませんが、街を通り抜ける甲州街道の両側を、各商店が競って毎年面白い七夕飾りを造り飾っていました。綺麗な色の薄紙を折って花を作ったり、短冊を大きな竹にくくりつけたりと手伝いも楽しかったものです。織り姫と彦星の年に一度の出合いの様に、貴重な人との出会いがあります。たとえ年に一度の逢瀬でも、継続して想いが通じることは素敵なことです。いつまでも一生涯大切にしたい人との出会いは、人生の宝物だと思います。（も）